

汎用画像処理装置

FV2330-W7e

FV1300-W7e

(for Windows Embedded Standard 7)

W7eユーザーズガイド

☆第2版☆

(株)ファースト

ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
- 本書の内容について、将来改良を目的に予告なしに変更することがあります。
- 本製品がお客さまにより不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたことなどに起因して生じた損害等については責任を負いかねます。
- Windows XP, Windows Embedded Standard 7, Windows 7, Visual StudioはMicrosoft Corporationの商標です。

この説明書で使われているマークについて



装置が故障しないようにするための注意、正しく動作させるための注意、重要な注意事項などを説明します。



重要な操作方法、カギとなる事項などを説明します。



操作上のヒント、特に Windows の操作方法などについて説明します。

はじめに

このたびは弊社の汎用画像処理装置「FV2330-W7e/FV1300-W7e」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

「FV2330-W7e/FV1300-W7e」は工業用 CPU ボード、ネットワークアダプタ、VGA ディスプレイアダプタ、キャプチャボード、フォトカプラ絶縁 I/O ボードなど、実績のあるコンポーネントだけで構成された、コンパクトで信頼性の高いスタンドアローン型の画像処理装置です。

「FV2330-W7e/FV1300-W7e」は組み込み用 OS-Windows Embedded Standard 7 を搭載した画像処理装置です。

Windows Embedded Standard 7 は、Windows7 の贅肉を削ぎ落とし必要最低限の機能で動作しているため、OS 自体がコンパクトであり、FA での使用に耐ええる信頼性の高いものです。FA 現場での運用に最適化された画像処理マシンです。

スイッチを入れる前に!!



本装置を使用する前に、本説明書を必ず熟読くださるようお願い致します。

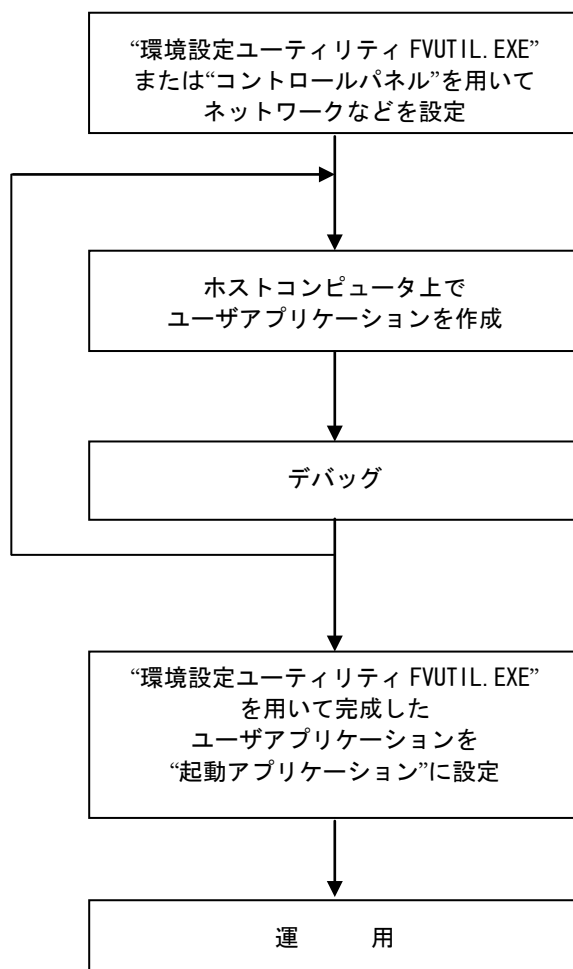
1 . 運用までの行程	1
1.1 開発環境について	2
2 . 起動と電源 OFF	3
2.1 起動	3
2.2 電源 OFF	4
2.3 シャットダウン	4
3 . Windows アプリケーション	5
3.1 アプリケーションの起動方法	5
3.2 使用可能な Windows アプリケーション	6
4 . Windows Embedded Standard 7 環境における制限事項	7
4.1 ユーザ名とパスワード	7
4.2 自動起動アプリケーション	7
4.3 仮想メモリ機能の非サポート	7
4.4 その他、見た目など	7
5 . ファイル装置へのアクセスについて	9
5.1 ドライブ構成	9
5.2 Cドライブへの書き込みアクセスの制限	9
6 . 環境設定ユーティリティ FVUTIL.EXE	11
6.1 ネットワーク (Network)	12
6.2 スタンドアロン環境では	13
6.3 ディスプレイ (Display Settings)	14
6.4 ライトフィルター (Write Filter)	15
6.5 日付と時刻 (Date and Time Settings)	16
6.6 起動アプリケーション (Start Application)	17
6.7 ユーザ (User)	19
7 . コントロールパネルによる設定	21
8 . ネットワーク経由のファイルコピー	23
8.1 本装置側にファイルアクセスする場合	23
9 . ユーザアプリケーションについて	25
9.1 ユーザアプリケーション作成時の注意点	25
9.2 ユーザアプリケーションの完成後	26

目 次

10 . ライブラリのアップデート方法.....	27
--------------------------	----

1. 運用までの行程

運用までの行程をおおまかに示します。

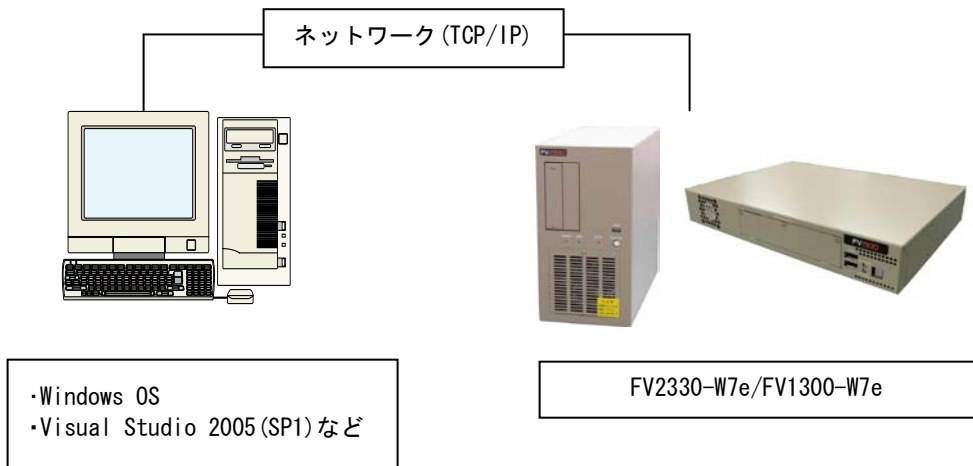


1.1 開発環境について

「FV2330-W7e/FV1300-W7e」自体にはプログラム開発環境は搭載されていません。
ソフトウェア開発キットがインストールされたコンピュータでユーザアプリケーションを作成し、それを「FV2330-W7e/FV1300-W7e」にコピーして動作させます。

お客様で必要とする機材／環境は以下のとおりとなります。

- ・ OS : Windows XP, Windows Vista, Windows 7
- ・ Visual Studio 2005 (SP1) などの開発環境
- ・ ネットワーク (TCP/IP)

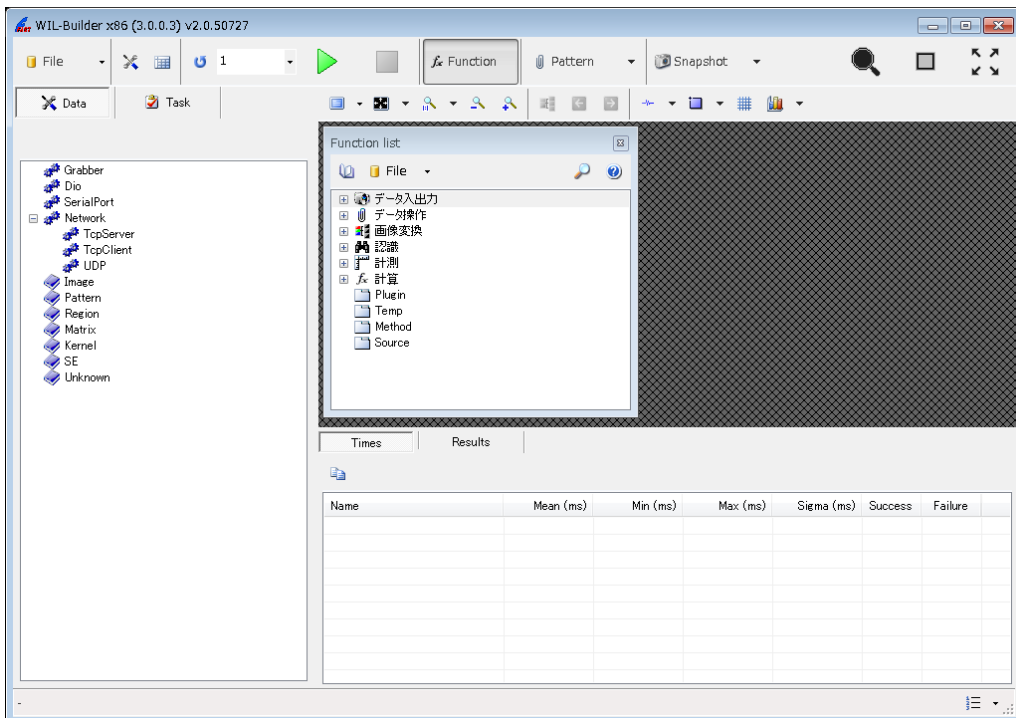


2. 起動と電源 OFF

2.1 起動

キーボード、マウス、ディスプレイを接続し、装置前面の電源スイッチを ON にしてください。
ご購入直後は、OS の立ち上がり後、弊社製ソフトが起動します。(起動時に自動的に立ち上がるアプリケーションを自動起動アプリケーションと呼びます。自動起動アプリケーションは後述の方法で変更することができます。)

WILBuilder.exe が起動し下図のように表示されます。



2.2 電源 OFF

シャットダウンプロセスを実行後、自動的に電源 OFF になります。
特に、下記に示す状態の場合にシャットダウンプロセスなしに電源スイッチを OFF にすると、最悪の場合ファイルが壊れたり起動しなくなったりしますのでご注意ください。

- ・ファイル装置へのアクセスをしているとき。
装置前面の “ HDD ” ランプ(LED)が点灯しているとき。
- ・Windows が完全に立ち上がっていないとき。
(BIOS 画面やブルースクリーンのとき。)
- ・書き込み可能状態で起動しているとき。
(『[5. ファイル装置へのアクセスについて](#)』の項を参照してください。)



上記に反する操作を行うと最悪の場合ファイルが壊れたり、起動しなくなったりしますのでご注意ください。

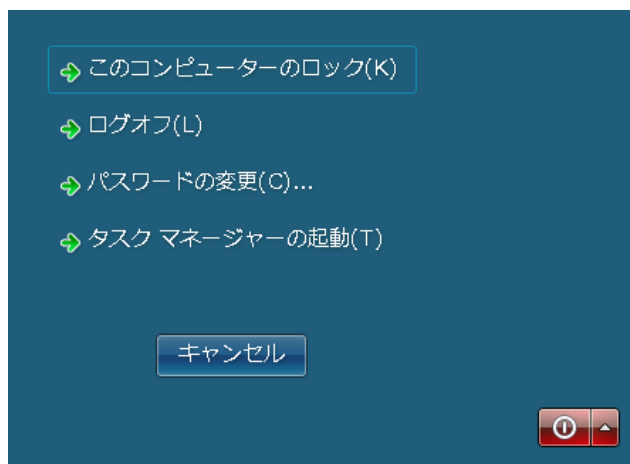
※電源 OFF 後、再投入 (ON) にする場合は、30 秒以上の時間をおいてから行ってください。

2.3 シャットダウン

シャットダウンは以下の手順で行います。

- ① 起動しているアプリケーションを終了します。
- ② キーボードの「Ctrl」「Alt」「Del」キーを同時に押すと以下の画面が表示されます。

※実際に表示される画面と多少異なる場合があります。



- ③ 右下のシャットダウンボタン  をクリックしてください。
- ④ OS のシャットダウン終了後、自動的に電源 OFF になります。

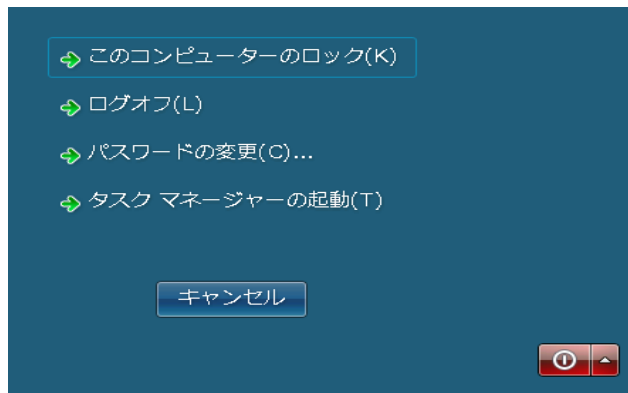
3. Windows アプリケーション

3.1 アプリケーションの起動方法

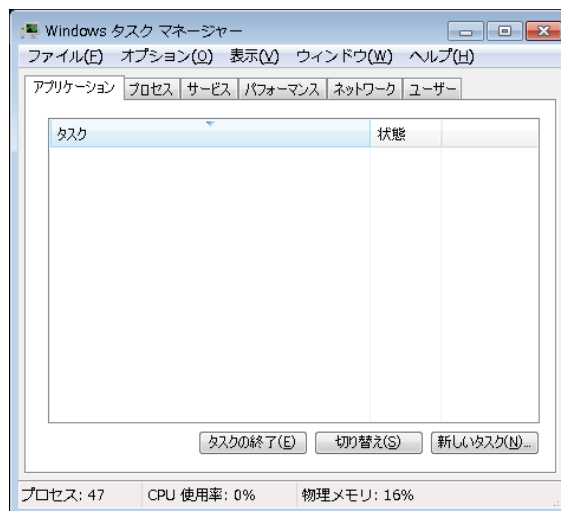


工場出荷直後、本装置は普通のWindows7とは違い、デスクトップ、タスクバーなどは表示されません。(設定により表示可能です。)
他のアプリケーションを起動したいときは、タスクマネージャーを表示します。
タスクマネージャーはキーボードの「Ctrl」「Alt」「Del」キーを同時に押し表示される画面から「タスクマネージャーの起動」を選択し起動します。
または、「Ctrl」「Shift」「Esc」キーを同時に押すことで、直接タスクマネージャーを起動することも出来ます。

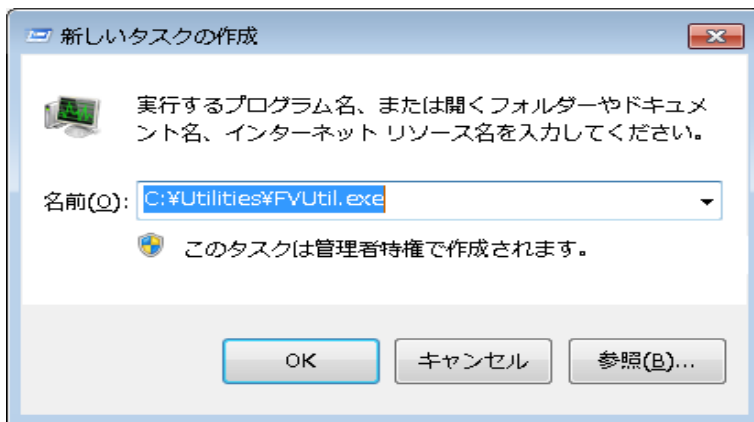
「Ctrl」「Alt」「Del」キーを同時に押します。



「タスクマネージャーの起動」を選択します。



タスクマネージャーの「新しいタスク」をクリックします。
次の図のダイアログボックスが表示され、アプリケーションを選択すると、実行可能になります。
図では FVUTIL を起動しようとしています。たとえば notepad.exe を指定すると、メモ帳が起動し、cmd.exe を指定するとコマンドプロンプト(いわゆる DOS 窓)が起動されます。



3.2 使用可能な Windows アプリケーション

本装置で使用可能な Windows アプリケーションは以下のとおりです。

- ・ エクスプローラ (C:¥WINDOWS¥EXPLORER.EXE)
ファイルのコピー、コントロールパネルの起動、他のコンピュータの検索等に使います。
- ・ コマンドプロンプト (DOS 窓) (C:¥WINDOWS¥SYSTEM32¥CMD.EXE)
- ・ イベントビューア (C:¥WINDOWS¥SYSTEM32¥EVENTVWR.EXE)
デバイス、サービスのレポートを表示します。
- ・ メモ帳 (C:¥WINDOWS¥SYSTEM32¥NOTEPAD.EXE)
- ・ タスクマネージャー (C:¥WINDOWS¥SYSTEM32¥TASKMGR.EXE)
アプリケーションを起動したり、プロセスの稼働状態、メモリの使用状態を観察します。



その他、以下のアプリケーションがインストールされていますが、これらは基本的には使用しないでください。
システムに重大な支障を及ぼす場合があります。

- ・ レジストリエディタ (REGEDIT32.EXE)
- ・ コンピュータの管理 (COMPMGMT.MSC)

4. Windows Embedded Standard 7 環境における制限事項

4.1 ユーザ名とパスワード



本装置は電源 ON 後ユーザ名、パスワードを入力しなくても自動的に Windows にログオンします。この機能を「オートマチックログオン」と呼びます。

ユーザ名とパスワードの初期値は以下のとおりです。

ユーザ名 : FVAdmin

パスワード : FVAdmin

ユーザ名とパスワードは後に説明する環境設定ユーティリティ「FVUTIL.EXE」で変更可能ですが、初期値のままをご使用ください。

4.2 自動起動アプリケーション

ご購入直後は弊社製アプリケーション「WILBuilder.exe」が自動で起動されるよう設定されています。

お客様で作成されるアプリケーションを実行させる場合はソフトウェアの完成後、弊社製アプリケーションと入れ替えてください。

自動起動アプリケーションの設定は後述の「FVUTIL.EXE」で行います。

4.3 仮想メモリ機能の非サポート

本装置ではファイル装置へのスワップアウトを排除する目的で仮想メモリ機能をサポートしていません。

搭載されているメモリの範囲で使用してください。

4.4 その他、見た目など

本装置で採用している「Windows Embedded Standard 7」は通常の「Windows7」と見た目は同じ部がありますが、全く同じ動作をするとは限りません。

5. ファイル装置へのアクセスについて

5.1 ドライブ構成

本装置のドライブ構成と内容は以下のとおりです。

- C ドライブ : OS およびライブラリ関連システム
(DLL、デバイスドライバ、ツール類)
- D ドライブ : ユーザに開放(ユーザアプリケーション、データ領域)
容量は約 10GB

注) 「Windows Embedded Standard 7」では「マイドキュメント」の保管場所をCドライブから書き込み可能なDドライブに変更しています。(XP Embedded はCドライブです。仕様が異なりますので注意が必要です。)

5.2 Cドライブへの書き込みアクセスの制限



通常の立ち上がり時、Cドライブへの書き込みアクセスは、OS およびライブラリ関連システムの保護のため全て無効となります。

ただし、見た目にはアクセスが成功したかに見えます。

たとえば、エクスプローラでファイルをコピーするとファイルは作成され、リード/ライトアクセス可能ですが、そのファイルはメモリ上に作成され、ファイル装置には書き込まれません。

よって次回立ち上がり時には、コピーしたファイルは存在しません。

もちろん、ユーザ作成のアプリケーションでも同じことが起こります。

ここで言う書き込みアクセスとは以下の場合です。

- ・ファイルのコピー
- ・ファイルの削除
- ・レジストリへの書き込み/変更

しかし、ネットワークの設定を変更する、あるいは自動起動アプリケーションを変更するなどといった場合はCドライブへ(レジストリ)の書き込みが必要となります。

この場合は、環境設定ユーティリティ「FVUTIL.EXE」でライトフィルターの設定を変更する必要があります。

6. 環境設定ユーティリティ FVUTIL.EXE

本装置の動作環境の設定は「FVUTIL.EXE」で行います。「FVUTIL.EXE」は以下のフォルダにあります。
C:\Utilities

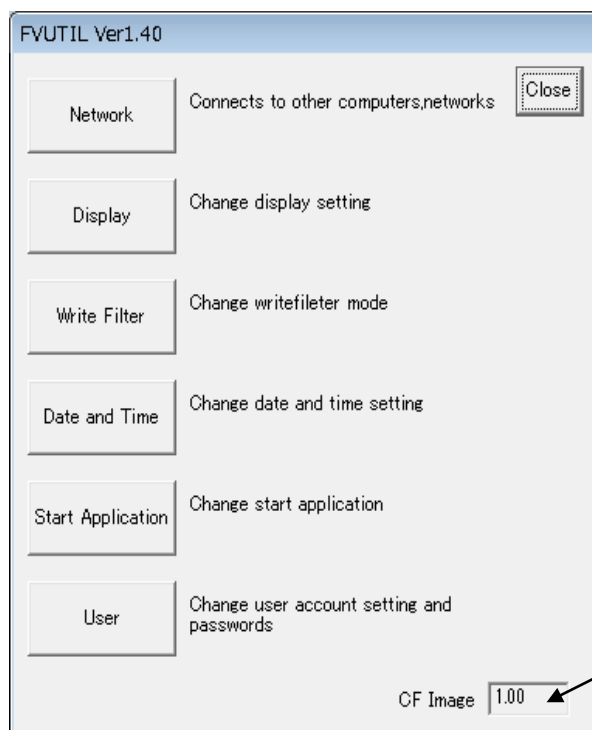
「FVUTIL.EXE」で設定可能な項目は以下のとおりです。

- ・ ネットワーク
IPアドレス, サブネットマスク, デフォルトゲートウェイ, コンピュータ名, ワークグループなど
- ・ ディスプレイ
スクリーン解像度の設定
- ・ 日付と時刻
日付と時刻の設定
- ・ 起動アプリケーション
自動起動アプリケーションの設定
- ・ ユーザ
ユーザ名およびパスワードの変更, オートマッチクログオンの設定／解除



「FVUTIL.EXE」を用いて設定を変更する場合、後述のライトフィルター(Write Filter)がCドライブへの書き込み可能な状態でなければなりません。(参照するだけならば書き込み不可能な状態でも構いません。)また、ほとんどの設定は次回起動時から有効となります。

「FVUTIL.EXE」を起動すると下図のダイアログボックスが表示されます。以下、それぞれの項目について説明していきます。



本装置のバージョンが表示されます。

6.1 ネットワーク (Network)



本装置と他のコンピュータとはネットワーク (TCP/IP) に接続して使用することができます。ネットワークを使用する場合、ネットワークの設定は確実に行ってください。

TCP/IP、コンピュータ名、ワークグループの設定を行います。

- ・本装置がネットワーク上に複数台接続されている場合、コンピュータ名をそれぞれ異なる名前に設定してください。
- ・ネットワークの詳細については、ネットワーク管理者に相談してください。
- ・コンピュータ名は次回起動時から有効となります。
- ・ワークグループを変更しても Windows ネットワークの特性上の理由でホストコンピュータにすぐには認識されないことがあります。(数分かかる場合があります。)
この場合、ホストコンピュータをリブートすると比較的早く認識される場合があります。
- ・コントロールパネルでも設定可能です。

下図はネットワーク関連のデフォルト (出荷時) の状態です。

FVUTIL の「Network」→「Computer Name」を確認してください。

注) 「FV1300-W7e」の場合は、「Computer Name」に FV1300-W7e を設定しています。

Computer name

Computer Name: FV2330-W7e

Workgroup: WORKGROUP

OK

Cancel

FVUTIL の「Network」→「Network Connections」

→ 「ローカルエリア接続」のプロパティを選択

→ 「ネットワーク」タブの「この接続は次の項目を使用します」の一覧から

「インターネットプロトコルバージョン 4」を選択しプロパティを確認します。

インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティ

全般 代替の構成

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

IP アドレスを自動的に取得する(O)

次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I):

サブネット マスク(U):

デフォルト ゲートウェイ(D):

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P):

代替 DNS サーバー(A):

終了時に設定を検証する(L)

詳細設定(V)...

OK キャンセル

6.2 スタンドアローン環境では. . .



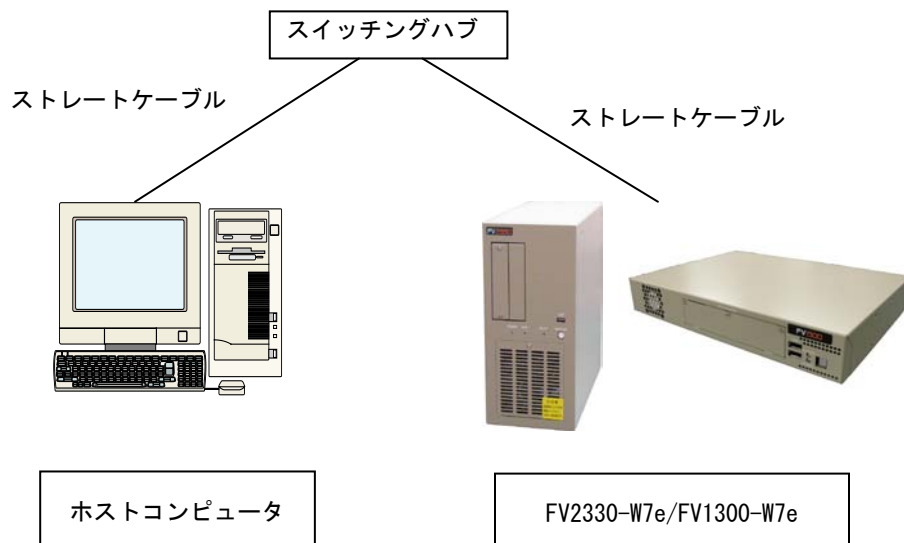
ネットワークに接続されていないコンピュータと1対1で接続したい場合は、そのコンピュータにNIC(ネットワークインタフェースカード)が搭載されていれば本装置と接続可能になります。

その場合、TCP/IPの設定は以下のように行ってください。

- ・基本的にIPアドレスの最後のオクテット(ドットで区切られた最後の数字)が異なっていればOKです。
- ・サブネットマスクは指定のとおりを設定してください。
- ・コンピュータ名はそれぞれ異なる名前をつけてください。

ホストコンピュータ側		本装置側	
IPアドレス	: 192.168.0.1	IPアドレス	: 192.168.0.2
サブネットマスク	: 255.255.255.0	サブネットマスク	: 255.255.255.0

下図のようにスイッチングハブにストレートケーブルで接続してください。



6.3 ディスプレイ (Display Settings)

FVUTIL の「Display」を選択し設定します。

ディスプレイの設定を行います。

「コントロールパネル」→「画面の解像度の調整」からでも設定できます。



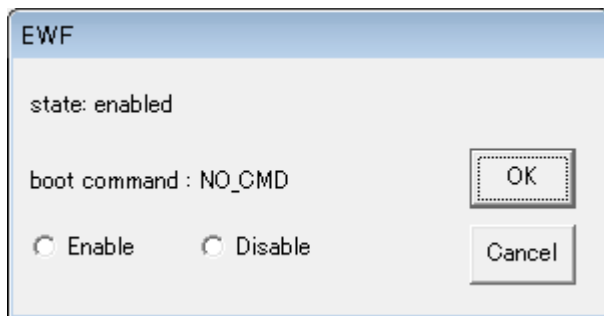
6.4 ライトフィルタ(Write Filter)

FVUTILの「Write Filter」を選択します。

Cドライブの書き込みアクセスの設定を行います。

Cドライブの書き込みを禁止にする場合は、Enableを選択してください。

Cドライブの書き込みを有効にする場合は、Disableを選択してください。



state: 現在の状態を表示します。

boot command: 発行された最新のコマンド情報

*注意 EWFのapiを使用している為、同様のapiを使用した他のアプリケーションにより発行されたコマンドが表示される事が有ります。

- ・ NO_CMD
- ・ ENABLE
- ・ DISABLE
- ・ SET_LEVEL
- ・ COMMIT

Enable(書き込みを禁止)またはDisable(書き込みを有効)を選択後、 をクリックします。

設定後、必ず装置を再起動して下さい。本設定は再起動後に有効となります。



Write Filterのメニューを開いた時に選択されている項目(Enable/Disable)は、現在の状態となります。

例えば、現在の状態がEnableの時に、Enable → Disableへ変更して

をクリック後、再び本メニューを開いた場合、Enableが選択されています。

これは、次回起動時の設定(Disable)ではなく、現在の状態(Enable)を表示している為です。

6.5 日付と時刻(Date and Time Settings)

FVUTILの「Data and Time」を選択します。

日付と時刻の設定を行います。「日付と時刻の変更」ボタンから設定を変更します。

「コントロールパネル」→「時計、言語、および地域」→「日付と時刻の設定」からでも変更できます。

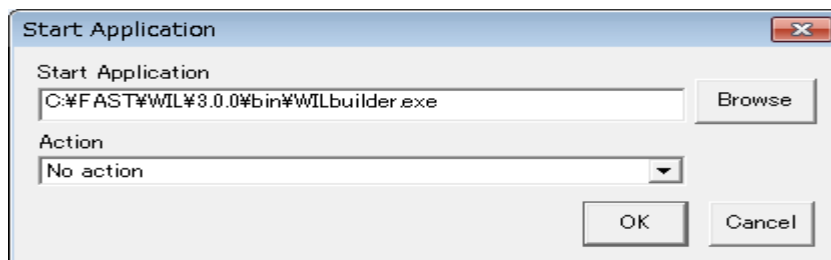


6.6 起動アプリケーション(Start Application)

本装置の起動時に自動的に起動されるアプリケーション(Start Application)と、そのアプリケーションの終了時の処理(Action)を指定します。

- ・ 指定できるアプリケーションは1つです。
注) Windows XP Embedded では複数指定できませんが、Windows Embedded Standard 7 で指定できるのは1つです。ご注意ください。
- ・ Start Application 設定は次回起動時から有効となります。
- ・ Action 設定は Start Application が起動していない場合、次回起動時から有効ですが Start Application が起動している場合、即時に有効となります。

下図はデフォルトの状態です。



Start Application : 本装置の起動時に自動的に起動されるアプリケーションを指定します。

Action : Start Application の終了時の動作を設定します。

Action 一覧

Restart the application	Start Application が再起動します。
Restart the system	本装置を再起動します。
Turn off the system	本装置をシャットダウンします。
No action	何もしません。



デスクトップを表示したい場合は...

工場出荷直後、本製品を起動するとデスクトップおよびタスクバーは表示されません。

表示したい場合は起動アプリケーションに以下のように記述してください。

(大文字/小文字どちらでも可)

EXPLORER.EXE

デスクトップおよびタスクバーが表示されます。

シャットダウンなどもスタートボタンから実行できます。

デスクトップを表示する場合、Start Application には EXPLORER.EXE のみを記述し、その他の起動アプリケーションは、Windows のスタートアップにショートカットを登録して下さい。

※エクスプローラは起動させたいがデスクトップおよびタスクバーは表示したくない場合は以下のように記述してください。

EXPLORER

(両者の記述の違いは“.EXE”を付けるか付けないかです。)

- 注 1) StartApplication が EXPLORER のときとデスクトップ表示時の Action 設定は無効になります。
- 注 2) 保存処置中などに誤ってシャットダウンシーケンスを実行した場合、「X 個のプログラムが閉じられていません」と表示されます。この時、デスクトップ表示時は「キャンセル」ボタンを実行できますが、デスクトップ非表示時は「キャンセル」ボタンは使用できません。

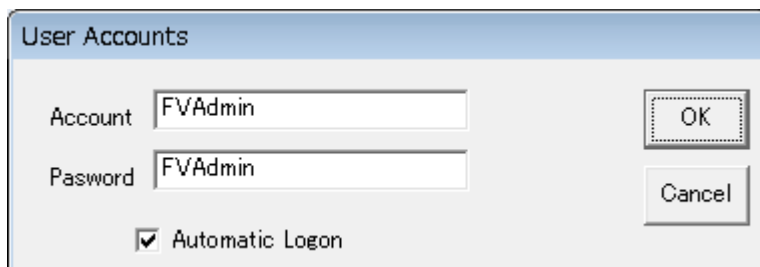
6.7 ユーザ (User)

現在のユーザ名とパスワードを変更します。ユーザを追加するものではありません。

- ・ デフォルトのユーザ名とパスワードでご使用ください。
不適切なユーザ名とパスワード文字を設定するとオートマチックログオンができなくなります。
- ・ デフォルトのユーザ名とパスワードは共に “FVAdmin” です。
- ・ パスワードは空(文字なし)にしないでください。オートマチックログオンができなくなります。
- ・ 基本的に、オートマチックログオンは解除しないで、有効にしておいてください。
(非常時、一時的にオートマチックログオンを解除する目的で設けてあります。)
- ・ ユーザ名に “Administrator” , “Guest” を設定することはできません。
- ・ 設定は次回起動時から有効となります。

注) この設定はあくまでもログイン情報になります。ユーザ名、パスワードを追加変更する場合は、W7e のユーザーアカウント情報を変更する必要があります。

下図はデフォルト (出荷時) の状態です。



The image shows a dialog box titled "User Accounts". It has two text input fields: "Account" and "Pasword". Both fields contain the text "FVAdmin". Below the fields is a checkbox labeled "Automatic Logon" which is checked. To the right of the fields are two buttons: "OK" and "Cancel".



注) FV2330-W7e/FV1300-W7e の有効なアカウントは工場出荷直後において FVAdmin のみです。パスワードの変更等は、[コントロールパネル]→[ユーザーアカウントの追加または削除]で行いますが、誤って FVAdmin のパスワードを失念した場合、復旧できなくなります。

FVAdmin のパスワードを変更した、新しいアカウントを作成した場合など、あらかじめパスワードリセットディスクを作成することをお勧めします。
パスワードを忘れた場合にそのディスクを使用してパスワードをリセットすることができます。

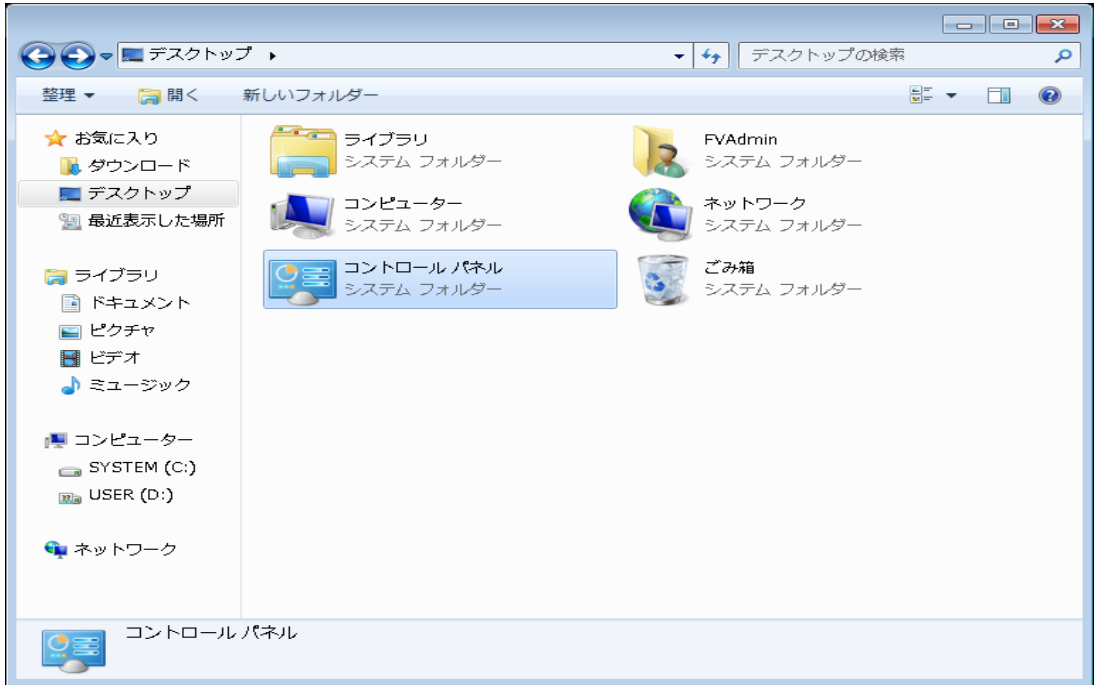
[パスワードリセットディスクの作成方法]

[コントロールパネル]→[ユーザーアカウントと家族のための安全設定]→[ユーザーアカウント]→[パスワードのリセットディスクの作成]を押下します。

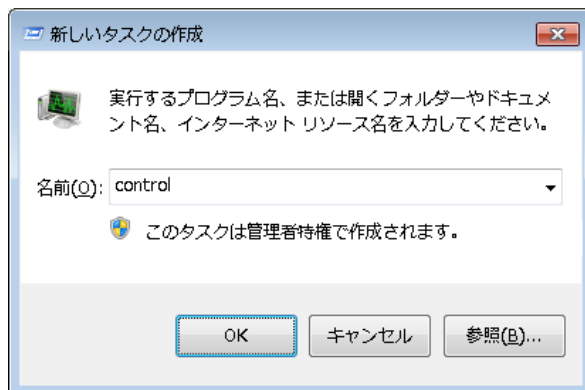
[パスワードディスクの作成ウィザード]が起動しますので、ウィザードに従ってパスワードディスクを作成してください。

7. コントロールパネルによる設定

コントロールパネルを使用した本装置の設定について説明します。
コントロールパネルの起動方法です。エクスプローラを起動し、お気に入り→デスクトップを選択してください。



またはタスクマネージャを起動し、新しいタスクに control と入力する方法もあります。



コントロールパネルでは設定可能な項目は以下のとおりです。

- ・ システムとセキュリティ
コンピュータ名等を設定します。
- ・ ネットワークとインターネット
- ・ デスクトップのカスタマイズ
画面の解像度を設定します。
デフォルト(出荷時)は
解像度 : 1024×768
色 : 32ビット
画面のリフレッシュレート : 60ヘルツ
- ・ 時計、言語、および地域

8. ネットワーク経由のファイルコピー

ここではネットワーク上の他のコンピュータとのファイルのコピー方法について説明します。
最も簡単な方法はネットワークコンピュータと共有フォルダを使用する方法です。

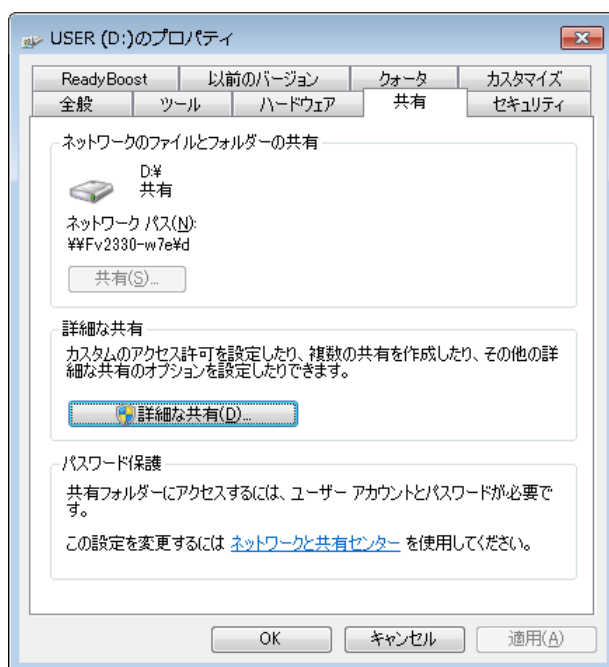
「FV2330-W7e/FV1300-W7e」の工場出荷直後、ユーザ領域としてDドライブに共有設定をしています。

注) FVxxx0-XPe 装置の場合、「D:\User」のみ共有フォルダでしたが、FV2330-W7e/FV1300-W7e からDドライブ全体を共有しています。

8.1 本装置側にファイルアクセスする場合

「FV2330-W7e/FV1300-W7e」のDドライブは以下の設定で共有されています。

- ① 「FV2330-W7e/FV1300-W7e」でエクスプローラを起動し、Dドライブを選択し、「共有」→「詳細な共有」を選択します。必要に応じて「詳細な共有」ボタンを押下し、ユーザ数、アクセス許可設定をしてください。



共有設定を変更した場合、ライトフィルタがCドライブへの書き込み可能な状態でなければ、次回起動時、共有の設定の変更は反映されません。
(一時的に利用する場合は構いません。)

②「ホストコンピュータ」（ネットワーク上の他のコンピュータ）上で「FV2330-W7e/FV1300-W7e」のコンピュータ名を探し接続します。

このとき、ユーザ名とパスワードを求められますので

ユーザ名 FVAdmin

パスワード FVAdmin

で接続してください。

③¥FV2330-W7e¥にアクセス可能となりますので、ファイルをコピーできます。

注) FV1300-W7eの場合は、¥FV1300-W7e¥にアクセス可能となります。



本装置に共有フォルダ経由でアクセスを行うときは、「ホストコンピュータ」のパスワードが設定されている必要があります。

パスワードが設定されていない場合は「FV2330-W7e/FV1300-W7e」にログオンできません。

9. ユーザアプリケーションについて

9.1 ユーザアプリケーション作成時の注意点



ユーザアプリケーション作成時は以下の点に注意してください。

- ・ Cドライブへファイルを作成しない
 - ファイル装置へは書き込まれないため、次回立ち上がり時にはそのファイルは存在しません。Dドライブ上に作成してください。
 - テンポラリファイルとしての使用もしないでください。メモリ上にファイルが作成されるためメモリが足りなくなる場合があります。
- ・ ファイルのフラッシュ
 - ファイルへ書き込むプログラムを作成した場合、電源 OFF 時はできるだけシャットダウン処理を行ってください。遅延書き込みが発生した場合、ファイル装置へ書き込みが行われない場合があります。
また、プログラム上でバッファの内容をファイル装置へフラッシュ(強制書き込み)するような処理を付け加えた方が安全です。(FlushFileBuffers API 関数など)
- ・ メモリの確保について
 - ページングファイルを使用していないためメモリアロケーション関数の返値を厳重にチェックしてください。
 - 常にメモリの残り容量を考慮してください。
- ・ レジストリ
 - 基本的にレジストリに書き込むプログラムを書かないでください。参照のみにしてください。
 - どうしてもレジストリに書き込まなければならない場合は、ライトフィルターが Cドライブへの書き込み可能な状態であればなりません。

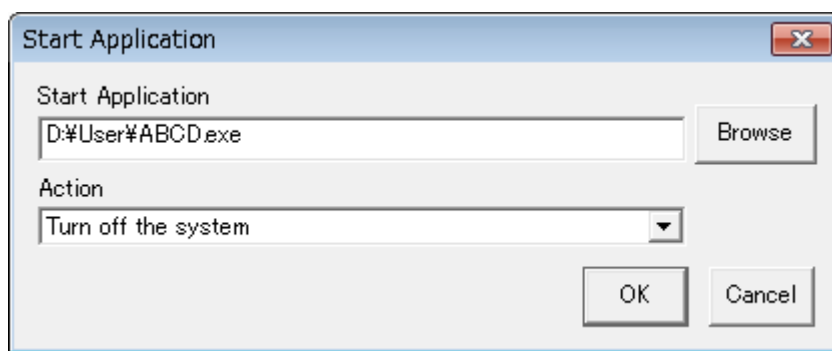
9.2 ユーザアプリケーションの完成後

- ・ 起動アプリケーションへの設定例
デバッグが終了したら、作製したユーザアプリケーションを起動アプリケーションに設定します。

起動アプリケーションへの設定は、『[6. 環境設定ユーティリティ FVUTIL.EXE](#)』の『[6.6 起動アプリケーション \(Start Application\)](#)』の項を参照してください。

起動アプリケーションは必ず D ドライブ上に置いてください。(フォルダの作成は自由です。)

例：「FV2330-W7e/FV1300-W7e」の D ドライブの “USER” フォルダに ABCD.EXE という名のユーザアプリケーションを起動アプリケーションに設定し、起動アプリケーション終了時にシャットダウンする設定です。



10. ライブラリのアップデート方法

インストーラを使用してライブラリのアップデートが可能です。

Dドライブ等にインストーラをコピーしてインストールを行ってください。

- ・ライトフィルターがCドライブへの書き込み可能な状態であればなりません。

修理依頼フォーム

必要事項をご記入の上、
FAX又はE-mailにてお送りください。

FAX : 046-272-8692

E-mail : support@fast-corp. co. jp
(株)ファースト ユーザ・サポート係

_____年 _____月 _____日

※内容を確認した上で、送付先等ご連絡いたします。

会社名 :	担当者名 :
部署名 :	
住 所 :	
電話番号 :	FAX番号 :
E-mail :	
製品名 :	シリアルNo :

状況 または 内容	(不具合内容、操作手順、エラーメッセージなどを出来る限り詳しくご記入下さい。)
	<p>以下、該当する項目にチェックして下さい。</p> <p>パワーランプ： <input type="checkbox"/>点灯 <input type="checkbox"/>消灯 <input type="checkbox"/>つかない</p> <p>ファン : <input type="checkbox"/>回転する <input type="checkbox"/>回転しない</p> <p>他のCFカード又はシステムSSDで試したか？</p> <p><input type="checkbox"/>試した <input type="checkbox"/>試していない</p> <p><input type="checkbox"/>他のCFカードでは起動する <input type="checkbox"/>他のCFカードでも起動しない</p> <p><input type="checkbox"/>他のシステムSSDでは起動する <input type="checkbox"/>他のシステムSSDでも起動しない</p>
再現性	<input type="checkbox"/> 常に出る <input type="checkbox"/> 時々(頻度 _____)
弊社記入欄 :	

[注] 1. このページはコピーしてお使いください。

FV2330-W7e/FV1300-W7e
W7e ユーザーズガイド

2013 年 6 月第 2 版発行

発行所 株式会社ファースト

本 社 〒242-0001 神奈川県大和市下鶴間 2791-5

ユーザ・サポート FAX 046-272-8692 TEL 046-272-8691
E-mail : support@fast-corp. co. jp

B-002604